

狂犬病を発症した患者の 脳脊髄液における免疫応答と そのメタボローム解析について

日 時：平成24年2月28日（火）15:30～17:00
場 所：国立感染症研究所 戸山庁舎共用第一会議室

プログラム：現在、発症すると100%死亡する狂犬病には治療がなく、狂犬病ウイルスに感染した場合は、感染直後の速やかな暴露後のワクチン接種(PEP)による発症予防以外に確実に助かる道はありません。RODNEY E. WILLOUGHBY, JR.博士(ウィスコンシン医科大学小児科学、准教授)は、2004年にコウモリから狂犬病に感染して、ワクチン接種をすることなく発症した少女(15歳)の治療にあたった医師団の代表で、当時、医師団は狂犬病の免疫応答に関する既報の論文を詳細に分析してミルウォーキープロトコル(Milwaukee Protocol)を組み立て、この方法によって少女を狂犬病から生還させることに成功しました。本セミナーでは、狂犬病の世界的な現状と課題(井上 智、感染研・獣医学部)、わが国で2006年に発生したヒトの輸入狂犬病の患者事例の病理組織学(飛梅 実、感染研・感染病理部)についての最新知見を紹介した後、RODNEY E. WILLOUGHBY, JR., 博士から、脳脊髄液のメタボローム解析で見つかった狂犬病を発症した患者に特異的な分子の代謝と狂犬病ウイルスを排除するための自然免疫について最新の知見をお話いただきます。

1. 狂犬病の概要 15:30-16:00
司会: 林 昌宏(ウイルス第一部)
(1) 狂犬病について
井上 智 (獣医学部)
司会: 井上 智(獣医学部)
(2) わが国で発生した輸入狂犬病症例(2006年)の病理学的解析
飛梅 実 (感染病理部)
2. 狂犬病を発症した患者の脳脊髄液における免疫応答とそのメタボローム解析について 16:00-16:45
司会: 山田章雄(獣医学部)
RODNEY E. WILLOUGHBY, JR.博士(ウィスコンシン医科大学小児科学、准教授)
3. 意見交換 16:45-17:00